

20th
ANNIVERSARY

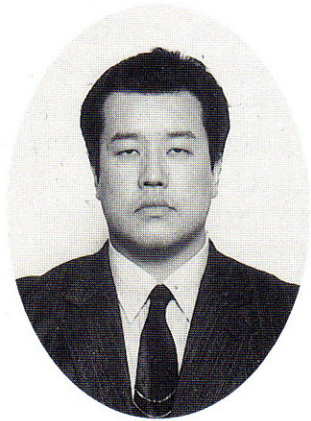
我ら歴史の糸を紡がむ

Develop Your New Stage

1995.2 No.94

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 藤居 忠弘 編集責任者 小原 得雄 印刷所 東京印刷株



中海地方拠点都市指定後の課題

理念の構築

+

Plan・Do・Check・Action

中海圏開発委員会委員長
土井 一朗

平成9年、県西部にとって大切な年になりそうです。

岡山までの高速自動車道開通、ジャパンエキスポ、西部県民会館オープン等々…。しかし、その先は見えてきません。

東京から見れば、中海圏は一体化して見える地域でしょう。人口集積は50万人とも言われますが、政・官・民・とも連帯がとれていない為に、英知を結集できない現状です。

小さな市町村単位で、個々に発展計画が立案・実行されているようでは、地域全体の大きな発展のダイナミズムは生まれません。

その中で、近年我々の先輩方が核となり、中海圏域地方拠点都市の指定を目指し、両県の26市町村が、政・官・民・一体となった広域な運動が展開されました。これは素晴らしい実績と言えましょう。さらにこれを発展すべく、我々青年中央会も20周年を機に、藤居会長の指導のもと、中・長期ビジョン検討委員会を設置し、いよいよ責任ある青年団体として未来像を考えようという行動が始まりました。

長期ビジョンが決まった後考えておきたいこととして、

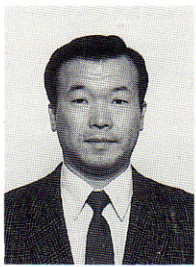
第一に「中海圏域の人のネットワークづくり」、日頃我々も安来・松江の事を口にしますが、両市の青年団体の皆さんの顔も知らないのが実状です。これではいけません。

第二に「行政権者の理解と協力を得ること」、10年と言うスパンで、行政権者に対し交渉・提言を辛抱強く続けていくことが必要でしょう。

我々の地域は、経済的には弱者であるといえます。とするならば、弱者の戦い方があるはずですが。“巨視的見方を失うなかれ！”その時々利権の感覚に動かされれば、いつまでたっても弱者の地域は県外大手資本の餌となって、衰亡の一途をたどるものだと思います。

混迷する現代、今こそ慎重居士を捨て去り、志を持ち、気力を養い行動することが大切です。米子市だけの発展はあり得ません。境港市も同様でしょう。枝葉末節にとらわれず本質を見極め、21世紀に向かい輝ける50万都市圏を創造する“核”に我々はなりたいと考えます。

— 20周年に寄せて —



第19期卒
山本 俊文 氏

今回はOBの中から第19期ご卒業の山本OBにお願いしました。

平成6年7月16日(土曜日)米子市文化ホールにて、西部中小企業青年中央会の創立20周年記念の一環として、すばらしい企画の卒業式で送り出していただいてから、7ヶ月が過ぎました。卒業しても10月頃までは現役会員のよう気分でしたが、不思議なことにそれ以降は遠い昔のような気がいたします。

時代の流れに加速がついたのでしょうか?ここ数年、変化、変革の時代と言われておりますが、昨年のように日本の総理大臣が細川、羽田、村山と三人も変わるような歴史は過去にはなかったのではないのでしょうか。

政治の急速な変化は一政治のみならずすべての面において激動の時代に入ったといえます。

青年経済団体として青年中央会も19年の歴史を積み重ね、充実した歳月は各時代の会長初め、役員、会員の英知と友愛と団結のたまものであり、今までの歴史の上にさらにすばらしく、新しい歴史を積み上げることは現役会員の

義務であると思います。

変化、変革、激動、(いいではないでしょうか)。こういう時こそ青年の出番です。青年中央会の真価を発揮する時です。今、日本は、新しい時代を迎えようとしています。今までの秩序、仕組が崩壊し、青年のエネルギーによって次の時代が始まると思います。青年中央会の20年目はちょうどそういった時に遭遇したわけです。自分自身の考え方、行動により無限の可能性があるチャンスの時代に、青年中央会の人脈は何よりも得難いものだと思います。青年中央会の良さは現役だけでなく、OBとのつながりがきちんとあることです。「継続は力なり」私はこれが青年中央会の原理原則で不変のものだと信じています。現役会員の皆さん、今一度、自分にとって青年中央会とは何かという事を考えてみてください。青年中央会の今後に期待しつつペンを置きます。

1月例会報告

1月20日(金)「平安閣」において、1月例会が開催されました。開催にあたり1月17日に発生した兵庫県南部地震の犠牲者に対し一分間の黙禱が行なわれた。現在迄に約5,000名の尊い生命が失われたとのことで、壊滅的打撃を受けた方への義援金集めも同時に行われた。

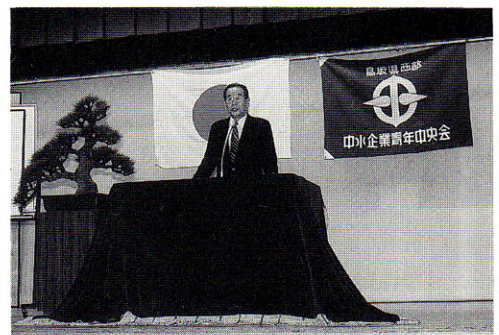
通常例会では、藤居会長より2名の新入会員に対しバッジが授与され、「青年中央会より得たいもの」という難題にて各々力強い抱負を語ってもらった。

通常例会に引き続き、(株)BSS企

画・常務取締役井本智博氏をお招きして「得するおしゃべり、損するおしゃべり」というテーマで講演に入った。内容としては日頃から何気なく話す「言葉」を中心に、どちらかという再認識の意味で受け取ることが出来ました。

「言葉」とは人と人をつなぎ付けるKEY、それは、正確に早くいかに伝達するかが命である。特に現代社会において機械と人間との共存が進むなかでは、話上手は益々得をするんだ。そして社会人ならしゃべったことに対し責任がある事を忘れて

はいけないとも言われた。話し方、聞き方等の留意点をこと細かく話して頂き、もう1時間あったら後ろ髪引かれる思いにて有意義な講演を終了しました。



1995年度

フレッシュ委員会卒業生配属リスト

氏名	配属委員会	氏名	配属委員会
森中 栄	政治行政	水 康 徳	労 務
有田 勲夫	カルチャー	武海 章	中海 圏
俵 彰 夫	観光流通	小椋 博之	地域交流
村上 宏行	広 報	田川 廣美	総 務

※1月委員会から上記新メンバーに対し、委員会開催案内を忘れないようよろしくお願いいたします。

中長期ビジョン検討委員会報告

1月24日(火)、米子食品会館に於いて、第4回中長期ビジョン検討委員会が開催された。

初めに、前回の委員会で主題となっていた「テーマ作り」について各委員会より持ち寄った意見の交換を行い討議した。

「テーマ作り」については、会長の意志によってテーマを決めた以上その方針は貫かれるべきであるとか、委員長を早期に決め役員会等で十分に検討し最初の委員会から即活動ができるようにしておくとか、単年度事業テーマだけでなく2年越しの継続的なテーマをもって活動する委員会も必要である等、様々な意見があった。

さらに、今回の委員会では「テーマ作り」ということに絞って討議する予定ではあったが、テーマ作り以前の問題も出された。例えば、「中央会のあり方」について再討議

すべきであるという意見、又中長期ビジョン検討委員会の運営方法、パネルディスカッションの取組方法、具体的なテーマの提案、等々実に多岐にわたって意見の交換がなされた。

当委員会はこれまで4回の委員会を重ねてきた。この間に寄せられた様々な意見等に、会員の皆さんの中央会に対する期待と熱い想いが伝わってくる。そして、その反響の大きさに改めて当委員会の役割の重みを痛感している。

このように、会員から寄せられた多岐にわたる様々な意見・想いを1つの答えとして集約することは難しい。今後パネルディスカッションの開催に向けて意義のある会とするために、その運営方法等について再度検討・討議していくことを確認し、第4回目の委員会を終えた。

ようこそ 新入会員

新入会員カルテ

氏名: 戸野 俊二

企業名: 山陰化成工業(株)

趣味: 読書 血液型: AB

症状及び所見:

この度、西部青年中央会への入会をご承認頂き誠に有り難うございます。若輩ではございますが、西部青年中央会、ひいては当西部地区の発展に微力ではございますが、尽力いたしたいと考えますので、何とぞご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新入会員カルテ

氏名: 竹中 和孝

企業名: (有)竹中自動車

趣味: スポーツ 血液型: B

症状及び所見:

(有)竹中自動車整備工場で二級整備士検査主任として仕事に従事しています。現工場を将来に大きく羽ばたかせるべく頑張っていますが若い整備士志望者が少ない為、一人でも多くの方が自動車業界に入って頂くよう自分なりに輪を広げているところです。入会をよい機会とし、広く先輩諸氏の話聞きながら精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。



厄落としの会報告

1月22日午前10時30分、菊の家にて総勢15名がいざ出陣とばかりに当館マイクロバスに乗り込み、平成7年度“厄落としの会”の幕が落とされた。

当日はあいにくの雨模様、藤居親分を先陣とする我が西部青年中央一家の各組員は午前11時勝田神社へ向かい神妙に厄落としの儀式を行った。

各面々が今年一年の家内安全無事を祈願したところでパチッと記念撮影。

懇親会は、勝田神社より頂いた御神酒で軽く乾杯!おや、今年の第2部は例年と少し違う。やはり年のせいだろうか?しかしそこは西部青年中央一家!小原・大畑両子分がバチを両手に持ち、太鼓をドンドンとたたき場を盛り上げる努力をわすれていない。

一同大いに盛り上がり、楽しい雰囲気うちに第2部が終了した。今

回の幹事さんの柴野、大畑氏そして参加された会員の皆様、大変お疲れ様でした。そして来年の幹事の安部さん、長谷川さん、後の事は宜しく!



一 トライアスロンスタッフ募集 一

希望の方は 石谷・音田各部長まで

2月末日 〆切

マラソン部15名・ボランティア部12名

妻の本音

「私の主人は二つ違い」 森永 千恵美

年齢からいうと主人の方が年上なのですが外見はいくら私が若向ファッションをしている時も逆に見られることの多かった夫婦です。新婚の頃、二人で買物をしていて知り合いの方から「弟さんですか?」と言われた時のショックは大きいものでした。

どうでもよいことなのですが女性である私にとっては当時、ズシンと響いたのを覚えています。

以来、二人で揃って出かけるのは内心あまり好きではないのです。

しかし、この2、3年、童顔の主人の顔にもやはり変化が出てきました。

深いシワが目立ってきたのです。よく言えば渋さが出てきたというかー。

今なら二人で並んでも同じ年ぐらいに見てもらえるかもしれせん。

外見の年齢差が埋まるのに17年かかりました。主人が忙しすぎたのか?それとも、私が成長しなかったのか?

パスポートの写真を見比べて「前の写真より今の方が若く見えるでしょう」と言う主人に本音は言えません。私と娘の為にしっかり頑張ってくれた分、深くなったシワですから…。

我がままばかりいっている私ですが主人への感謝でいっぱいです。

これからも元気で過してくれることを祈ります。



聞いてごしない Part 8

「厄落とし」

中央会の有志で厄落としに出掛けた。入会したの頃、「厄落とし」詣での案内を耳にする度、「何と、がいなおっつあんやちがお一会だなあ」なんて十分な余裕で眺めていたものだったのに…。今年で厄落とし詣でが最後となった。これを「お礼参り」と呼ぶのだそうだ。やっと厄が終わったというのに物騒な呼び名である。

厄年には本当に色んなことが起きる。自分は大丈夫だろうと、たかをくくっていたが、他聞に漏れず、たくさんの事件が、今や遅しと待ち構えていた。前厄の年、子供の手術、突然の父の入院そして2カ月後の死。本厄の年、1年間亡父の残務整理に東奔西走。後厄の昨年、家内の交通事故に始まり、祖母が緊急入院、子供の手術、自社ビルの火災、祖母の死。あげくの果て執拗な税務調査と続いた。「一体俺が何をしたというんだ!」と怒ってみても空しい。それならと、「色々な修行が用意してあるのも、もっと苦勞を重ね、人間性を高めろということか。この年でこんなにも苦勞をさせていたでくなくて本当に有り難いことだ。あー楽しい。」と自分に言い聞かせることにした。「これだけで済んで良かった」と思うのもよい。要は気持ちの持ちようだ。

インドのサンスクリット語で「カルマ」という言葉がある。作用と反作用を意味する言葉である。人は何故、お金持ちの家に生まれたり、極貧の家に生まれたりするのだろうか。また、何故、ある人は頑健な体力に恵まれ、ある人は虚弱体質に生まれ、或いは、人生の途上で、不治の病にかかったりするのだろうか。これは「カルマ」と関係があるのだという。人は生まれ変わりを繰り返しており、その際、前世から持ち越す償いの法則がある、これが「カルマ」である。人は神に近づくために、何回も生まれ変わり、カルマを刈り取って行くという。すべての負債を清算するためにこの肉体に宿っているのである。

今年こそは!と神聖な気持ちで神社に詣でた。一切の邪念を捨て、清らかな心で神様にお礼を言うつもりでいたが、神主さんの祝詞の最中、気が緩んだのか、この後の「菊乃家」でのコンパニオンとの楽しい一時を思い描いている自分に気づいた。全くもって不覚の至りである。他の皆は真剣な面持ちでいた。まだまだ償わなければならない負債(厄)がたくさんあるみたいだ。私は、幾分後ろめたさを感じながら宴会場へ向かうバスに乗った。(文・てなぐさみ)

2月例会案内

日時 2月14日(火) 18:00~
場所 サンシャイン平安閣
講師 (財)家計経済研究所専務理事 吉村彰氏
演題 「これからの地域の活性化と
地場企業のかかわり」
担当 観光流通委員会

今月は、県中小企業団体中央会の補助事業で、東京から元国土庁長官官房審議官も務められた、当県出身の吉村彰氏をお迎えし、ご講演頂きます。厳しい今日の経済状態の中、「今、自分は、何をすべきか?」その判断材料の一助になればと思います。多額の費用を使っています。是非、一人でも多くの人にご参加頂きたいと思います。
※出席の有無を2月10日までに返信ハガキにてご回答下さい。

2月役員会報告

2月定例役員会が2月1日(水)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通り。

- (1) 2月例会(フォーラム)、3月例会開催の件
- (2) 運動会開催の件
- (3) その他

※尚、詳細については各委員長までご照会下さい。

社名変更 及び 店舗移転 のお知らせ

内田良一会員(労務委員会)

① 内田不動産(株) ⇨ ② (株)ウチダレック

新住所: 米子市米原5-5-17
TEL 33-4748(代) FAX 34-7528

※平成7年1月16日より営業

編集後記

突然阪神大都市を襲った直下型地震が、ライフラインをズタズタにし、多くの人命を奪い取った事に対し、心より御見舞いと御悔やみ申し上げますと同時に、地震対策は他国に比べ万全であるという我々日本人のおごりが、これだけの大災害へ招いて行ったのではと思えてならないのですが…。会員の皆様方は、どうお考えでしょうか。(Y・T)